

		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
9月13日 (月)						日本海洋学会創立80周年記念シンポジウム 日本の海洋学の今とこれから(ウエビナー)					ナイトセッション 国連海洋科学の10年	

		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
9月14日 (火)	第1会場		21F-02 海洋と大気の力学		昼食	ポスター 21F-02,05,07			21F-02 海洋と大気の力学			
	第2会場		21F-01 海洋酸性化・貧酸素化・地球温暖化の海洋生態系への影響評価				21F-05 極域・寒冷域の海洋環境変動に関する分野横断研究					

		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
9月15日 (水)	第1会場		21F-10 黒潮大蛇行		昼食				授賞式・受賞記念講演 (ウエビナー)		若手会員との懇談会	
	第2会場		21F-07 海洋環境における放射性核種の動態ー東京電力福島第一原発事故から10年の海洋科学的総括ー									

		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
9月16日 (木)	第1会場		21F-03 熱帯の物理・化学・生物		昼食	ポスター 21F-06,08,13			21F-08 中緯度海洋の果たす役割			
	第2会場		21F-06 海洋における微量元素・同位体				21F-13 海洋化学・海洋生物一般					

		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
9月17日 (金)	第1会場		21F-11 沿岸域の海洋循環と物質循環		昼食	ポスター 21F-04,09,11,12,14	21F-11 沿岸域の海洋循環と物質循環		21F-14 海洋総合			
	第2会場		21F-12 海洋物理一般				21F-12 海洋物理	21F-04 数ヶ月から数年スケールの気候・海洋生態系の変動とその予測				

9月18日(土) 10:00~16:00 共催シンポジウムA 沿岸海洋シンポジウム「沿岸域は地球温暖化にどう立ち向かうか」

9月18日(土) 13:00~17:30 共催シンポジウムB 中緯度大気海洋相互作用研究の現状と展望

※ プログラムは変更する場合があります。

9月14日（火）午前

アスタリスク付き発表ID：招待講演者

開始時刻	第1会場	開始時刻	第2会場
	<p>21F-02 海洋と大気の力学 尾形 友道 (JAMSTEC)・田村 仁 (港湾技術研)・吉川 裕 (京大)・三寺 史夫 (北大低温研)</p>		<p>21F-01 海洋酸性化・貧酸素化・地球温暖化の海洋生態系への影響評価 小笠 恒夫 (水研機構)・藤井 賢彦 (北大地球環境)・芳村 毅 (北大水産)</p>
9:00	<p>★座長 大貫 陽平 (九大)</p> <p>21F-02-1* 海底圧力に及ぼす力学の多様性とその相互関係の理解 ○有吉慶介(海洋研究開発機構)・永野憲(海洋研究開発機構)・松本浩幸(海洋研究開発機構)・長谷川拓也(北海道大学)・伊東優治(東大地震研)</p>	9:30	<p>趣旨説明</p> <p>★座長 小笠 恒夫 (水研機構)</p>
9:15	<p>21F-02-2 深海底凹凸地形上における乱流混合のパラメタリゼーション ○日比谷紀之(東京大学大学院)</p>	9:35	<p>21F-01-1 東北太平洋沿岸域の底水温の上昇と底魚分布のシフト ○寛茂穂(水産研究・教育機構水産資源研究所)・成松庸二(水産研究・教育機構水産資源研究所)・岡村悠梨子(宮城県庁)・矢倉浅黄(宮城県水産技術総合センター)・伊藤進一(東京大学大気海洋研究所)</p>
9:30	<p>21F-02-3 Numerical study of lee wave-driven bottom-enhanced mixing in the Southern Ocean ○何英(東京大学大学院)・日比谷 紀之(東京大学大学院)・永井平(水産研究教育機構)</p>	9:50	<p>21F-01-2 地球温暖化による海水温の上昇が北太平洋西岸域に生息するアマモ類の分布変化に与える影響の予測 ○藤原有希子(北海道大学大学院)・須藤健二(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所)・Lawrence Patrick Bernardo(北海道大学大学院)・仲岡雅裕(北海道大学大学院)・藤井賢彦(北海道大学大学院)</p>
9:45	<p>21F-02-4 水平高波数の海底凹凸地形上における潮汐混合 ○平野雄介(東京大学大学院理学系研究科)・日比谷紀之(東京大学大学院理学系研究科)</p>	10:05	<p>21F-01-3 日本海固有水形成域における温暖化の影響 ○塩田幸平(九大総理工)・千手智晴(九大応力研)</p>
10:00	<p>21F-02-5 日本海大和海盆深層で観測された近慣性内部波の鉛直構造 ○酒井秋絵(九州大学大学院)・千手智晴(応用力学研究所)</p>		<p>★座長 藤井 賢彦 (北大地球環境)</p>
10:15	<p>21F-02-6 槽田渦の内部にパラメトリック励起される重力波の碎波シミュレーション ○大貫陽平(九州大学)・Sylvain Joubaud(ENS de Lyon)・Thierry Dauxois(ENS de Lyon)</p> <p>★座長 吉川 裕 (京大)</p>	10:20	<p>21F-01-4 貧酸素水塊の酸性化をアンモニア酸化古細菌が緩和する可能性 大塚健人(長崎大学大学院)・伊藤尚斗(長崎大学大学院)・丸山裕豊(長崎大学水産学部)・真角聡(長崎大学水産学部)・内田淳(長崎大学水産学部)・青島隆(長崎大学水産学部)・石松惇(JICA-ODA office, Can Tho Univ)・広瀬美由紀(長崎大学大学院)・松下吉樹(長崎大学大学院)・鈴木利一(長崎大学大学院)・○和田実(長崎大学大学院)</p>
10:30	<p>21F-02-7 18.6年潮汐変動を考慮したMIROC高解像度結合モデルの北太平洋長周期変動特性 ○松浦知徳(東大大気海洋研究所)・安田 一郎(東大大気海洋研究所)・建部洋晶(海洋研究開発機構)</p>	10:35	<p>21F-01-5 北西部北太平洋における二酸化炭素分圧の年周期・半年周期変動 ○石田明生(常葉大学)・中岡慎一郎(環境研究所)・野尻幸宏(弘前大学)</p>
10:45	<p>休憩</p>	10:50	<p>21F-01-6 亜熱帯モード水形成域における大気海洋間CO<sub>2</sub>分圧差の季節変動拡大 ○小杉如央(気象研)・小野恒(気象研)・石井雅男(気象研)</p> <p>★座長 芳村 毅 (北大水産)</p>
11:00	<p>21F-02-9 黒潮流軸における乱流運動エネルギー散逸率の長期時系列観測 ○付悦(九州大学大学院)・遠藤貴洋(九州大学応用力学研究所)・堤英輔(東京大学大気海洋研究所)・井上龍一郎(海洋研究開発機構)・長井健容(東京海洋大学)・中村啓彦(鹿児島大学水産学部)・仁科文子(鹿児島大学水産学部)・小針統(鹿児島大学水産学部)</p>	11:05	<p>21F-01-7 近年の津軽暖流の強化による津軽海峡東部のpHと炭酸カルシウム飽和度の急速な低下 ○脇田昌英(海洋研究開発機構)・佐々木建一(海洋研究開発機構)・永野憲(海洋研究開発機構)・阿部泰人(北大水産・海洋研究開発機構)・田中雄大(水産機構資源研)・長野晃輔(青森水総研)・杉江恒二(海洋研究開発機構)・金子仁(海洋研究開発機構)・木元克典(海洋研究開発機構)・奥西武(水産機構資源研)・高田信(東北環境科学サービス)・吉野順(東北環境科学サービス)・渡邊修一(海洋研究開発機構)</p>
11:15	<p>21F-02-10 黒潮と潮汐が影響する伊豆小笠原海嶺北部におけるサブメソスケール渦と物質輸送 ○増永英治(茨城大学)・内山雄介(神戸大学)・Xu Zhang(北京大学)・木村和久(鹿島建設)・小碓大地(港湾空港技術研究所)</p>	11:20	<p>21F-01-8 志津川湾・日生湾におけるマガキの海洋酸性化影響評価 ○濱野上龍志(北大院・環境)・Lawrence Patrick Bernardo(北大院・地球環境)・太齋彰浩(サスティナビリティセンター)・片尾紗凡(エイト日本技術開発)・脇田昌英(海洋研究開発機構)・小笠恒夫(水産研究・教育機構)・藤井賢彦(北大院・環境、北大院・地球環境)・田中文裕(里海づくりに研究会議)</p>
11:30	<p>21F-02-11 表層混合層乱流による沈降粒子粒径スペクトルの変形に関する数値実験 ○西野圭佑(電力中央研究所)・吉川裕(京都大学理学研究科)・古市尚基(水産研究・教育機構水産技術研究所)</p>	11:35	<p>21F-01-9 沿岸浅海域におけるpH動態の海域間比較 ○小笠恒夫(水産研究・教育機構)・村岡大祐(水産研究・教育機構)・林正裕(海洋生物環境研究所)・依藤実樹子(海洋生物環境研究所)・太齋彰浩(サスティナビリティセンター)・片尾紗凡(エイト日本技術開発)・田中文裕(里海づくりに研究会議)・藤井賢彦(北海道大学大学院地球環境科学院)・濱野上龍志(北海道大学大学院地球環境科学院)・脇田昌英(海洋研究開発機構)</p>
11:45	<p>21F-02-12 波解像数値実験を用いた波による乱れの生成機構について ○今村春香(京都大学大学院)・吉川裕(京都大学大学院)・藤原泰(東京大学大学院)</p>	11:50	<p>総合討論</p>

9月14日（火）午後

アスタリスク付き発表ID：招待講演者

開始時刻	第1会場	開始時刻	第2会場
	<p>21F-02 海洋と大気のカ学 尾形 友道 (JAMSTEC)・田村 仁 (港湾技術研)・ 吉川 裕 (京大)・三寺 史夫 (北大低温研)</p>		<p>21F-05 極域・寒冷地の海洋環境変動に関する分野横断研究 大橋 良彦 (海洋大)・阿部 泰人 (北大水産)・ 立花 愛子 (海洋大)・木村 仁 (JAMSTEC)</p>
14:00	<p>★座長 古恵 亮 (JAMSTEC) 21F-02-13* 南極域における観測データの再現性の高い数値モデルの開発と海洋-棚氷相互作用の研究 ○中山佳洋(北海道大学)</p>	14:00	<p>趣旨説明  ★座長 阿部 泰人 (北大水産)</p>
14:15	<p>21F-02-14 海底境界層を通した深層水形成の減少が海洋の熱吸収と気候システムの熱収支に与える影響 ○鈴木立郎(海洋研究開発機構)・小室芳樹(海洋研究開発機構)・建部洋晶(海洋研究開発機構)・草原和弥(海洋研究開発機構)</p>	14:05	<p>21F-05-1 オホーツク海南部の海水量の年々変動特性とその要因 ○豊田威信(北海道大学)・木村詞明(東京大学)・西岡純(北海道大学)・伊藤優人(国立極地研究所)・野村大樹(北海道大学)・三寺史夫(北海道大学)</p>
14:30	<p>21F-02-15 東南極沖における南極周極流の南限の南下 ○山崎開平(北海道大学環境科学院)・青木茂(北海道大学低温科学研究所)・勝又勝郎(海洋研究開発機構)・平野大輔(国立極地研究所)・中山佳洋(北海道大学低温科学研究所)</p>	14:20	<p>21F-05-2 オホーツク海における沿岸起源海水の行方:物質循環への役割 ○久賀みづき(北海道大学低温科学研究所)・大島慶一郎(北海道大学低温科学研究所)・木村詞明(東京大学大気海洋研究所)・中田和輝(北海道大学低温科学研究所)・深町康(北海道大学北極域研究センター)</p>
14:45	<p>21F-02-16 南極周極流にローレンツ・ダイアグラムを適用する際の課題点 ○松田拓朗(東京大学大学院)・升本順夫(東京大学大学院)</p>	14:35	<p>21F-05-3 北極海、多年氷下境界層の物理過程に関する研究 (MOSAIC観測の報告) ○川口悠介(東京大学)・Zoe Koeing (Bergen U. / NPI)・野村大樹(北海道大学)・Mario Hoppman (AWI)・猪上淳(国立極地研究所)・Benjamin Rabe (AWI)・Kristin Schulz (AWI)・Ying-Chih Fang(AWI)・Christian Katlein (AWI)・Marcel Nicolaus (AWI)</p>
15:00	<p>21F-02-17 海底地形との相互作用による渦運動の形態分類：非線形 pseudoimage解と heton型渦対 ○竹内猛晶(北大院環境)・久保川厚(北大院地球環境)</p>	14:50	<p>21F-05-4 太平洋側北極海における堆積物中の珪藻類休眠期細胞群集と海水動態の関係 ○深井悠里(北海道大学大学院)・松野孝平(北海道大学)・藤原周(JAMSTEC)・鈴木光次(北海道大学)・Mindy L. Richlen(Woods Hole Oceanographic Institution)・Evangeline Fachon(Woods Hole Oceanographic Institution)・Donald M. Anderson(Woods Hole Oceanographic Institution)</p>
15:15	<p>21F-02-18 豪州北西岸の季節的潜流 ○古恵亮(JAMSTEC)  ★座長 尾形 友道 (JAMSTEC)</p>	15:05	<p>21F-05-5 グリーンランド・ボードイン氷河の融解がフィヨルドの表層炭酸系に与える影響 ○堀川理人(北海道大学水産科学院)・野村大樹(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)・杉山慎(北海道大学低温研究所)・深町康(北海道大学北極域研究センター)・漢那直也(東京大学大気海洋研究所)</p>
15:30	<p>21F-02-19 東シナ海におけるマルチスケール黒潮変動の観測 ○中村啓彦(鹿児島大学)・仁科文子(鹿児島大学)・加古真一郎(鹿児島大学)・井上龍一郎(JAMSTEC)・Hong Sik Min(KIOST)・Hanna Na(SNU)</p>	15:20	<p>21F-05-6 統一薄氷厚アルゴリズムによる全球ポリニヤ・海水生産量マッピング ○中田和輝(北海道大学)・大島慶一郎(北海道大学)</p>
15:45	<p>21F-02-20 潮汐混合によって変化したインドネシア通過流とその周辺の海洋循環 ○白石健気(九州大学大学院総合理工学府)・木田新一郎(九州大学応用力学研究所)・佐々木英治(海洋研究開発機構アプリケーションラボ)・古恵亮(海洋研究開発機構アプリケーションラボ)</p>	15:35	<p>21F-05-7 軌道要素や内部フィードバックに対する間氷期(MIS1, 5e, 11)の気候応答の比較分析 ○広瀬真(東京大学大学院)・阿部彩子(東京大学大気海洋研究所)・Wing-Le Chan(東京大学大気海洋研究所)・大石龍太(東京大学大気海洋研究所)</p>
16:00	<p>21F-02-21 インドネシア多島海からインド洋におけるマイクロプラスチック生成に関する数値的研究 ○河野綾平(九州大学大学院)・磯辺篤彦(九州大学応用力学研究所)</p>	15:50	<p>21F-05-8 春季データから見積られる、南大洋における海水融解量の分布とその変動 ○小松瑞紀(北大環境院)・大島慶一郎(北大低温研)・Vigan Mensah(北大低温研)</p>
16:15	<p>21F-02-22 準停滞性ロスビー波に伴う温位面や渦位面のゆがみを考慮した3次元残差流について ○木下武也(海洋研究開発機構)</p>	16:05	<p>21F-05-9 ベリングスハウゼン海における周極深層水の流入および氷河融解水の流出に関するモデル研究 ○瓢子俊太郎(北大環境院)・中山佳洋(北大低温研)・Vigan Mensah(北大低温研)</p>
16:30	<p>21F-02-23 寒気の冷たさの生成・消滅と大気海洋相互作用 ○菅野湧貴(電力中央研究所)・岩崎俊樹(東北大学)</p>	16:20	<p>21F-05-10 海氷上積雪が東南極多年沿岸定着氷の主要栄養塩の鉛直分布に与える影響 ○佐橋澤志(北海道大学大学院水産科学院)・野村大樹(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)・豊田威信(北海道大学低温科学研究所)・伊藤優人(国立極地研究所)・Pat Wangpan(タスマニア大学)・戸澤愛美(北海道大学大学院水産科学院)・田村岳史(国立極地研究所)・青木茂(北海道大学低温科学研究所)・牛尾収輝(国立極地研究所)</p>
16:45	<p>21F-02-24 La Niña発生時における冬季中緯度大気テレコネクション ○塩崎公大(九州大学応用力学研究所)・榎本剛(京都大学防災研究所/JAMSTEC APL)・時長宏樹(九州大学応用力学研究所)・森正人(九州大学応用力学研究所)</p>		
17:00	<p>21F-02-25 50km-AGCMで再現された北西太平洋域の台風活動度変動 ○尾形友道(海洋研究開発機構)・山本鞠子(海洋大)・田口文明(富山大)・野中正見(海洋研究開発機構)</p>		

9月15日（水）午前

アスタリスク付き発表ID：招待講演者

開始時刻	第1会場	開始時刻	第2会場
	<p>21F-10 黒潮大蛇行 美山 透 (IAMSTEC)・碓氷 典久 (気象研)・ 瀬藤 聡 (水研機構)・西川 はつみ (東大大海研)・平田 英隆 (立正大)</p>		<p>21F-07 海洋環境における放射性核種の動態—東京電力福島第一原発事故から10年の海洋科学的総括— 俣山 秀樹 (水研機構)・青山 道夫 (筑波大)・津旨 大輔 (電中研)・乙坂 重嘉 (東大大海研)</p>
9:00	<p>★座長 瀬藤 聡 (水研機構) 21F-10-1* 黒潮大蛇行が三重県沿岸の漁海況に及ぼす影響 ○久野正博(三重県水産研究所)</p>	9:15	<p>★座長 俣山 秀樹 (水研機構) 21F-07-1 海洋環境における放射性核種の動態: 東京電力福島第一原発事故から10年の海洋科学的総括 ○青山道夫(筑波大学・福島大学)・俣山秀樹(水産機構資源研)・猪股弥生(金沢大)・乙坂重嘉(東大大海洋研)・立田穰(電中研)・津旨大輔(電中研)・熊本雄一郎(IAMSTEC)</p>
9:30	<p>21F-10-2 2020年10月以降の黒潮大蛇行の経過 ○吉田久美(気象庁)・小司晶子(気象庁)・桜井敏之(気象庁)・辻健太郎(気象庁)・山根彩子(気象庁)・川村知裕(気象庁)・八木晃司(気象庁)・高見真和(気象庁)・井上祐希(気象庁)</p>	9:30	<p>21F-07-2 亜熱帯モード水へ取り込まれた放射性セシウムの経年変動 ○俣山秀樹(水産機構)・瀬藤聡(水産機構)・資源研)・熊本雄一郎(IAMSTEC)・青山道夫(筑波大、福島大)</p>
9:45	<p>21F-10-3 GCOM-C/SGLIとSentinel-3/OLCIの海色画像から推定した2020年の黒潮域の海流ベクトル ○村上浩(宇宙航空研究開発機構) ★座長 碓氷 典久 (気象研)</p>	9:45	<p>21F-07-3 福島周辺海域における堆積物中の事故由来放射性核種濃度の分布と輸送過程 ○乙坂重嘉(東京大学)・津旨大輔(電力中央研究所)・青山道夫(筑波大学)</p>
10:00	<p>21F-10-4 流線トポロジカルデータ解析を用いた黒潮蛇行発生の特定 坂上貴之(京都大学)・○大石俊(理化学研究所)・宇田智紀(東北大学)</p>	10:00	<p>21F-07-4 福島県沿岸域および松川浦における事故後9年間の堆積物中のCs-137濃度の推移 ○鈴木翔太郎(福島県水産資源研究所)・守岡良晃(福島県水産資源研究所)・松本陽(福島県水産事務所)・天野洋典(福島県水産海洋研究センター)・榎本昌宏(福島県水産海洋研究センター)・神山享一(福島県内水面水産試験場)</p>
10:15	<p>21F-10-5 最近の持続する黒潮大蛇行が亜熱帯モード水に与える影響 ○岡英太郎(東京大学大気海洋研究所)・西川はつみ(東京大学大気海洋研究所)・杉本周作(東北大院理)</p>	10:15	<p>21F-07-5 2019年台風19号通過後の阿武隈川河口沿岸域の放射性セシウム濃度変遷 ○高田兵衛(福島大学)・脇山義史(福島大学)・新井田拓也(福島大学)・五十嵐康記(福島大学)・アレクセイコノプリョフ(福島大学)・稲富直彦(海洋生物環境研究所)</p>
10:30	<p>21F-10-6 黒潮大蛇行が遠州灘沿岸域の海象・気象に与える影響～新青丸KS-21-9次研究航海速報～ ○西川はつみ(東京大学大気海洋研究所)・岡英太郎(東京大学大気海洋研究所)・杉本周作(東北大学)・川合義美(海洋研究開発機構)・小橋史明(東京海洋大学)</p>	10:30	<p>21F-07-6 マルチクラス3次元懸濁質輸送モデルを用いた福島沿岸域における陸域起源懸濁態放射性核種動態の解析 ○内山雄介(神戸大学大学院)・東 晃平(大阪市)・徳永夏樹(東京電力)</p>
10:45	<p>21F-10-7 JCOPE2M海洋再解析データで見た黒潮大蛇行による東海沿岸域の昇温 ○美山透(海洋研究開発機構)・宮澤泰正(海洋研究開発機構)・Sergey Varlamov(海洋研究開発機構)・章若潮(海洋研究開発機構) ★座長 平田 英隆 (立正大)</p>	10:45	<p>21F-07-7 海洋分散シミュレーションによる福島第一原発事故由来<sup>137</sup>Csの動態解明 ○津旨大輔(電力中央研究所)・坪野考樹(電力中央研究所)・三角和弘(電力中央研究所)・青山道夫(筑波大学)</p>
11:00	<p>21F-10-8 海底圧力計による黒潮域の海洋内部擾乱の伝播特性について ○小松幸生(東大院新領域／大気海洋研)・吉田聡(京大防災研)・有吉慶介(海洋研究開発機構)</p>	11:00	<p>21F-07-8* 海洋生物中における放射性セシウム濃度推移と生態系内挙動に関する放射生態学的要因の解明 ○立田穰(電中研)・俣山秀樹(水産機構)・資源研)・青山道夫(筑波大)</p>
11:15	<p>21F-10-9 2017年9月中旬の室戸岬東部で発生した急潮の要因について ○広瀬成章(気象庁気象研究所)・碓氷典久(気象庁気象研究所)・坂本圭(気象庁気象研究所)・高野洋雄(気象庁気象研究所)・中野英之(気象庁気象研究所)・山中吾郎(気象庁気象研究所)</p>	11:30	<p>21F-07-9 動物プランクトンにおける放射性核種の動態 ○喜多村稔(海洋研究開発機構)・俣山秀樹(水産機構)・資源研)・池上陸仁(海洋生物環境研究所)・高田兵衛(福島大学)・石丸隆(東京海洋大学)</p>
11:30	<p>21F-10-10 数値モデリングによる東シナ海の内部潮汐のエネルギー解析 ○辻英一(九州大学)・広瀬直毅(九州大学)</p>	11:45	<p>総合討論</p>
11:45	<p>総合討論</p>		

9月16日(木)午前

アスタリスク付き発表ID: 招待講演者

開始時刻	第1会場	開始時刻	第2会場
	<p>21F-03 熱帯の物理・化学・生物 東塚 知己(東大理)・升本 順夫(東大理)・齊藤 宏明(東大大海研)・本多 牧生(JAMSTEC)・長谷川 拓也(北大地球環境)・名倉 元樹(JAMSTEC)・時長 宏樹(九大応力研)</p>		<p>21F-06 海洋における微量元素・同位体 近藤 能子(長崎大院水産)・張 勁(富山大理)・小畑 元(東大大海研)・西岡 純(北大低温研)・乙坂 重嘉(東大大海研)・栗栖 美菜子(JAMSTEC)</p>
9:30	<p>趣旨説明 ★座長 時長 宏樹(九大応力研)</p>		<p>★座長 近藤 能子(長崎大院水産)・乙坂 重嘉(東大大海研)・栗栖 美菜子(JAMSTEC)</p>
9:35	<p>21F-03-1 ENSO固有周期に対するEkman輸送の効果 ○岩切友希(東大AORI)・渡部雅浩(東大AORI)</p>	9:30	<p>21F-06-1 北太平洋亜寒帯中層におけるマンガンと鉄の長距離輸送 ○小畑元(東京大学)・黄国宏(金沢大学)・金泰辰(韓国釜慶大学)・西岡純(北海道大学)</p>
9:55	<p>21F-03-2 太平洋暖水プール東部で観測した数日スケール大気海洋相互作用 ○永野憲(海洋研究開発機構)・耿驥(海洋研究開発機構)・谷口京子(海洋研究開発機構)・勝俣昌己(海洋研究開発機構)・植木巖(海洋研究開発機構)</p>	9:45	<p>21F-06-2 北太平洋亜寒帯における亜鉛とケイ酸塩の挙動 ○黄国宏(東京大学大気海洋研究所)・小畑元(東京大学大気海洋研究所)・金泰辰(韓国釜慶大学)・西岡純(北海道大学低温科学研究所)・眞塩麻彩実(金沢大学理工研究域)・長谷川 浩(金沢大学理工研究域)</p>
10:10	<p>21F-03-3 太平洋数十年規模振動に伴う太平洋とインド洋の相互作用の変調 ○石川光太(東京大学大学院)・東塚知己(東京大学大学院)</p>	10:00	<p>21F-06-3 亜寒帯北太平洋KH-17-3航海における溶存態・置換活性粒子態微量元素の東西と南北断面分布 ○陳卓然(京都大学化学研究所)・鄭臨潔(京都大学化学研究所)・宗林由樹(京都大学化学研究所)</p>
10:25	<p>21F-03-4 インドネシア多島海を通じた太平洋-インド洋間の波動エネルギー伝播経路 -太平洋から入射する場合- ○寺田雄亮(東京大学)・升本順夫(東京大学)</p>	10:15	<p>21F-06-4 亜寒帯北太平洋における溶存態Ni, Cu, Zn安定同位体比分布の解明 ○永江あゆみ(京都大学大学院理学研究科)・高野祥太郎(京都大学化学研究所)・宗林由樹(京都大学化学研究所)</p>
10:40	<p>21F-03-5 マカッサル海峡の海面水温と海面高度の関連性 ○市川香(九州大学 応力研)・張 甘夢(九州大学 総理工)</p> <p>★座長 升本 順夫(東大理)</p>	10:30	<p>21F-06-5 海水中Mo、W安定同位体比の分析法最適化と北太平洋鉛直分布 ○龍山智道(京都大学大学院)・松岡航平(京都大学大学院)・高野祥太郎(京都大学大学院)・宗林由樹(京都大学大学院)</p>
10:55	<p>21F-03-6 ジャワ島沖の沿岸湧昇の発生時期とその後のインド洋ダイポール現象の発達 ○堀井孝憲(海洋研究開発機構)・Eko Siswanto(海洋研究開発機構)・Iskhaq Iskandar(Sriwijaya University)・植木巖(海洋研究開発機構)</p>	10:45	<p>休憩</p> <p>★座長 張 勁(富山大理)・小畑 元(東大大海研)・西岡 純(北大低温研)</p>
11:10	<p>21F-03-7 MJOが中緯度に励起する波動エネルギー循環の診断にむけて ○相木秀則(名古屋大学)・福富慶樹(名古屋大学)・尾形友道(海洋研究開発機構)・菅野湧貴(電力中央研究所)・豊田隆寛(気象研究所)・中野英之(気象研究所)</p>	11:00	<p>21F-06-6 北太平洋亜寒帯域表層の鉄の化学形態と生物利用能 ○近藤能子(長崎大院水産・環境)・山中敏輝(長崎大院水産・環境)・砂原雄大(長崎大院水産・環境)・西岡純(北大低温研)・小畑元(東大気海洋研)・武田重信(長崎大院水産・環境)</p>
11:25	<p>21F-03-8 熱帯大西洋海面水温偏差の赤道非対称性の準10年規模変動と大気循環場との関係 ○古川善信(東北大学大学院)・杉本周作(東北大学大学院)</p>	11:15	<p>21F-06-7 東シナ海大陸棚・大陸斜面上における溶存鉄濃度と化学形態 ○佐藤光秀(長崎大学)・涌田陽平(長崎大学)・武田重信(長崎大学)</p>
11:40	<p>21F-03-9 海洋表層付近の成層構造が気候に与える影響: 大気大循環モデル実験 ○片岡崇人(海洋研究開発機構)・建部洋晶(海洋研究開発機構)・渡辺路生(海洋研究開発機構)・Hugo Bellenger(CNRS, LMD)・Jean-Philippe Duvel(CNRS, LMD)・Lionel Guez(CNRS, LMD)・Xavier Perrot(CNRS, LMD)</p>	11:30	<p>21F-06-8 化学トレーサーによる東シナ海外部陸棚低酸素水の起源水解析と混合比の定量 ○Wenjie Deng(富山大学)・Jing Zhang(富山大学)・Siteng Zhu(富山大学)・Keiji Horikawa(富山大学)・Takahiro Endoh(九州大学)・Takeshi Matsuno(九州大学)</p>
		11:45	<p>21F-06-9 潮汐による鉛直混合が北太平洋の基礎生産と栄養塩循環に与える影響 ○三角和弘(電力中央研究所)・坪野考樹(電力中央研究所)・津旨大輔(電力中央研究所)</p>

9月16日 (木) 午後

アスタリスク付き発表ID: 招待講演者

開始時刻	第1会場	開始時刻	第2会場
	<b>21F-08 中緯度海洋の果たす役割</b> 升永 竜介 (東大大海研)・遠山 勝也 (気象研)・宮本 歩 (東大先端研)・杉本周作 (東北大)		<b>21F-13 海洋化学・海洋生物一般</b> プログラム編成委員会
14:00	★座長 升永竜介 (東大大海研) 趣旨説明	14:00	★座長 近藤 能子 (長崎大院水産) 21F-13-1 海中における亜硝酸塩の光化学的な消失反応 ○武田重信(長崎大院水産・環境)
14:05	21F-08-1* 日本の地表面気温変動における中緯度大気海洋結合の役割 ○今田由紀子(気象研究所)・長谷川聡(東京大学大気海洋研究所)・塩竈秀夫(国立環境研究所)・森正人(九州大学応用力学研究所)・建部洋晶(海洋研究開発機構)・渡部雅浩(東京大学大気海洋研究所)	14:15	21F-13-2 北太平洋亜熱帯域の純群集生産を駆動するナノモルレベルのリン供給と迅速な再生 ○橋濱史典(東京海洋大学)・安田一郎(東京大学)・隈部あき(東京海洋大学)・佐藤光秀(長崎大学)・笹岡洋志(東京海洋大学)・飯田洋介(気象庁)・塩崎拓平(東京大学)・齊藤宏明(東京大学)・神田穰太(東京海洋大学)・古谷研(創価大学)・Philip W. Boyd(タスマニア大学)・石井雅男(気象研)
14:25	21F-08-2 日本海のスSTトレンドと亜寒帯前線の関係性 ○松浦浩巳(九州大学大学院)・木田新一郎(九州大学応用力学研究所)・上原克人(九州大学応用力学研究所)	14:30	21F-13-3 植物プランクトンのCN比はどのように決まるか ○増田良帆(北海道大学)・山中康裕(北海道大学)・中野英之(気象研究所)
14:40	21F-08-3 OFES2-NPZDモデルにより再現された黒潮流域における植物プランクトン濃度の十年規模変動 ○東塚知己(東京大学大学院)・笹井義一(JAMSTEC)・佐々木英治(JAMSTEC)・野中正見(JAMSTEC)	14:45	21F-13-4 衛星データ (GCOM-C) を用いた北海道周辺海域における植物プランクトンのモニタリング ○有馬大地(北海道立総合研究機構 中央水産試験場)
14:55	21F-08-4 海洋前線の蛇行に伴う鉛直循環と大気海洋相互作用 ○三浦康幹(京都大学大学院理学研究科)・吉川裕(京都大学大学院理学研究科)	15:00	21F-13-5 駿河湾における植物プランクトン群集構造の季節変動 ○相田奈々(東海大学大学院)・池上輝(東海大学大学院)・吉川尚(東海大学大学院)・宗林留美(静岡大学)・大林由美子(愛媛大学)・松浦弘行(東海大学大学院)・西川淳(東海大学大学院)
15:10	21F-08-5 北太平洋における貯熱量と海面熱フラックスの経年変化(I) ○川合義美(海洋研究開発機構)		★座長 有馬 大地 (道総研)
15:25	21F-08-6 中緯度海洋における海面塩分の季節変動のメカニズム - 東西コントラストに着目して - ○木戸晶一郎(海洋研究開発機構)・桂将太(スクリプス海洋研究所)・野中正見(海洋研究開発機構)・谷本陽一(北大院地球環境)	15:15	21F-13-6 駿河湾沖合部における微生物群集の時空間分布 ○宗林留美(静岡大学理学部)・高野勇知(静岡大学理学部)・茂木篤(静岡大学理学部)・峰澤卓巳(静岡大学理学部)・西川淳(東海大学海洋学部)・松浦弘行(東海大学海洋学部)・吉川尚(東海大学海洋学部)・大林由美子(愛媛大学沿岸環境科学研究センター)
15:40	休憩 ★座長 宮本 歩 (東大先端研)	15:30	21F-13-7 黒潮海域の沈降・懸濁粒子に付着する原核生物群集構造 ○海老原諒子(東京大学大気海洋研究所)・福田秀樹(東京大学大気海洋研究所)・横川太一(海洋研究開発機構)・永田俊(東京大学大気海洋研究所)
15:50	21F-08-7 南インド洋亜南極モード水のスパイネシス偏差 ○名倉元樹(海洋研究開発機構)	15:45	21F-13-8 浮遊性カイアシ類Pseudocalanus newmaniから検出された2種のウイルスの生態学的挙動 ○平井惲也(東京大学大気海洋研究所)・片倉靖次(紋別市)・長井敏(水産機構・資源研)
16:05	21F-08-8 La Niña現象時の冬季大気循環場 ～ 1年目と2年目の比較 ～ ○西平楽(東北大院理)・杉本周作(東北大院理)	16:00	21F-13-9 マイクロイメージングデバイスと画像認識によるマガキ幼生同定技術の開発 ○寛茂種(水産研究・教育機構 水産資源研究所)・関内孝行(株式会社プロトソリューション)・伊藤博(宮城県庁)・上野宗一郎(株式会社IDDK)・竹内寛(株式会社IDDK)・鈴木宏輔(アンデックス株式会社)・十川麻衣(宮城県水産技術総合センター)
16:20	21F-08-9 大気海洋結合モデルによる短期の予報可能性について ○中野英之(気象研究所)・浦川昇吾(気象研究所)・豊田隆寛(気象研究所)・新藤永樹(気象研究所)・吉村裕正(気象研究所)・川上雄真(気象研究所)・坂本圭(気象研究所)・山中吾郎(気象研究所)	16:15	21F-13-10 耳石の酸素安定同位体比を用いた東シナ海マアジ稚魚の近底層移行時期の推定 ○榎本めぐみ(東京大学大気海洋研究所)・伊藤進一(東京大学大気海洋研究所)・高橋素光(水産研究・教育機構水産資源研究所)・佐々千由紀(水産研究・教育機構水産資源研究所)・樋口富彦(東京大学大気海洋研究所)・白井厚太郎(東京大学大気海洋研究所)
16:35	21F-08-10 台風通過時にみられる気象庁全球日別海面水温解析の速報版のバイアスとその補正 ○伊藤耕介(琉球大学)		
16:50	21F-08-11 高緯度海洋アンサンブルデータ同化システムにおける適応型観測誤差膨張の有効性 ○大石俊(理化学研究所)・三好建正(理化学研究所)・可知美佐子(宇宙航空研究開発機構)		
17:05	21F-08-12 海面水温に対する海上風の応答についての数値モデルの再現性 ○升永竜介(東京大学)・Nklas Schneider(ハワイ大学)		
17:20	総合討論		

9月17日（金）午前

アスタリスク付き発表ID：招待講演者

開始時刻	第1会場	開始時刻	第2会場
	<b>21F-11 沿岸域の海洋循環と物質循環</b> 古市尚基（水研機構）・高橋大介（東海大）・山口一岩（香川大）・ 遠水祐一（佐賀大）		<b>21F-12 海洋物理一般</b> プログラム編成委員会
9:00	21F-11-1 ★座長 古市尚基（水研機構） 領域海洋モデルと粒子追跡モデルを用いた黒潮・親潮混合 水域における水塊分析に関する研究 ○池田雅（茨城大学大学院）・増永英治（茨城大学）・鈴江洋太 （建設技術研究所）・伊藤幸彦（東京大学）・内山雄介（神戸大 学）	9:00	21F-12-1 ★座長 森岡 優志（JAMSTEC） 氷期サイクル中のDO(ダンスガードオシュガー) イベント 出現メカニズムと気候—海洋系の安定性の分岐構造 ○阿部彩子(東京大学)・陳永利(東京大学)・シェリフ多田野 サム(東京大学)・小長谷貴志(東京大学)・國吉優太(東京大 学)・岡頭(東京大学)・吉森正和(東京大学)・齋藤冬樹(海洋 研究開発機構)・山本彬友(海洋研究開発機構)
9:15	21F-11-2 ドローンとラジコンボートを用いた河川フロントの観測 ○高見健大朗(九大・総理工)・木田新一郎(九大・応力研)・ 磯辺篤彦(九大・応力研)・田中深(東大・大気海洋研)	9:15	21F-12-2 気候モデルによる退氷期の急激な気候変化の再現 ○小長谷貴志(東京大学)・阿部彩子(東京大学)
9:30	21F-11-3 Toward optimal interpolation in Otsuchi bay ○Kim Yoo-Jun(東京大学大気海洋研)・Tanaka Kiyoshi(東京大 学大気海洋研)・Komatsu Kosei(東京大学新領域)・	9:30	21F-12-3 氷期気候とAMOCの千年スケール変動メカニズムとAMOC 安定性に及ぼす気候歳差の影響に関する気候モデル研究 ○國吉優太(東京大学大学院)・阿部彩子(東京大学)・Wing-Le Chan(東京大学)・シェリフ多田野サム(リーズ大学)・齋藤 冬樹(海洋研究開発機構)
9:45	21F-11-4 サロマ湖内における窒素・リンの現存量と組成比の変化 ○山越康介(北海道大学大学院環境科学院)・芳村毅(北海道 大学大学院水産科学院)・森亜弓美(北海道大学大学院環境 科学院)	9:45	21F-12-4 氷期・退氷期における千年スケールAMOC変動と気温や海 水温の大気海洋結合モデル解析 ○志村蓮(東京大学大気海洋研究所)・阿部彩子(東京大学大 気海洋研究所)・小長谷貴志(東京大学大気海洋研究所)・陳 永利(東京大学大気海洋研究所)・國吉優太(東京大学大気海 洋研究所)
10:00	21F-11-5 枯死後水生植物からの溶解有機炭素浸出量とその分解特性 ○田中秀幸(静岡大学大学院)・久保篤史(静岡大学)  ★座長 高橋 大介（東海大）	10:00	21F-12-5 南大洋の温暖化が引き起こす氷期大西洋深層循環のモード 遷移 ○岡頭(東京大学)・阿部彩子(東京大学)・シェリフ多田野サ ム(東京大学)・横山祐典(東京大学)・川村賢二(国立極地研 究所)・羽角博康(東京大学)
10:15	21F-11-6 陸奥湾底層における海底耕耘による栄養塩回帰プロセスの 解明と貧栄養化に対する有効性 ○阿部優之介(北海道大学大学院環境科学院)・工藤勲(北海 道大学大学院水産科学研究院)	10:15	21F-12-6 南大洋の塩分層の強化と鉄肥化が氷期の海洋化学ト レーサー分布に及ぼす影響 ○小林英貴(東京大学大気海洋研究所)・岡頭(東京大学大気 海洋研究所)・山本彬友(海洋研究開発機構)・阿部彩子(東京 大学大気海洋研究所)
10:30	21F-11-7 房総半島九十九里沖海域における海底からの天然ガス湧出 現象 ○鈴木昌弘(産総研)・長尾正之(産総研)・山岡香子(産総研)・ 清家弘治(産総研)・高橋暁(産総研)・塚崎あゆみ(産総研)・ 鈴木淳(産総研)・田村亨(産総研)・宇都宮正志(産総研)・北 牧祐子(産総研)・青木伸行(産総研)・太田雄貴(産総研)・吉 田剛(千葉環境研セ)・荻津達(千葉環境研セ)・石井光廣(千 葉水総研セ)・小宮朋之(千葉水総研セ)・高草木将人(千葉 水総研セ)・鈴木孝太(千葉水総研セ)・石田洋(公財海生 研)・小倉利雄(九十九里漁協)	10:30	21F-12-7 氷期における海洋循環の定量的理解に向けた <sup>231</sup> Pa/ <sup>230</sup> Th比 の数値シミュレーション ○植木優(東京大学大気海洋研究所)・小林英貴(東京大学大 気海洋研究所)・岡頭(東京大学大気海洋研究所)
10:45	21F-11-8 堆積物の粒子物質輸送過程に関する数値的研究 ○古市尚基(水産研究・教育機構)	10:45	21F-12-8 最終氷期最大期における潮汐混合の強化に対する大西洋子 午循環の応答(2) ○曾根田哲也(東京大学 大気海洋研究所)・岡頭(東京大学 大 気海洋研究所)
11:00	21F-11-9 富山深海長谷内部の流れと海水特性 ○千手智晴(九大応力研)	11:00	21F-12-9 古第三紀始新世における海洋熱塩循環場の変化について ○田旗栄太(京都大学大学院)・吉川裕(京都大学大学院)
11:15	21F-11-10 日本海産ホタルイカが反映する環境変化の解析 ○吉田光佑(富山大学理工学教育部)・張勁(富山大学学術研 究部理学系)・稲村修(魚津水族館)  ★座長 遠水 祐一（佐賀大）	11:15	21F-12-10 南極大陸縁における渦拡散の定量化 ○山崎開平(北海道大学環境科学院)・溝端浩平(東京海洋大 学)・青木茂(北海道大学低温科学研究所)
11:30	21F-11-11 栄養塩負荷削減による陸からの栄養塩供給量の減少と沿岸 域での栄養塩制限状態の強化～富山湾での事例～ ○片境紗希(富山大学大学院理工学教育部)・野嶋航太(富山 大学理学部)・松本碧人(富山大学理学部)・張勁(富山大学学 術研究部理学系)	11:30	21F-12-11 Argo塩分プロファイルに見られる高塩分ドリフトの影響 ○佐藤佳奈子(JAMSTEC)・細田滋毅(JAMSTEC)
11:45	21F-11-12 富山湾深層動物プランクトンからみる環境の長期変動 ○勝田裕大(富山大学大学院理工学教育部)・張勁(富山大学 学術研究部理学系)・稲村修(魚津水族館)	11:45	21F-12-12 教師なしクラスタリングから明らかにする黒潮主流変動が 海洋鉛直構造に与える影響 ○三部文香(東北大院理)・須賀利雄(東北大院理)・JAMSTEC)

開始時刻	第1会場	開始時刻	第2会場
	<p>21F-11 沿岸域の海洋循環と物質循環 古市尚基(水研機構)・高橋大介(東海大)・山口一岩(香川大)・速水祐一(佐賀大)</p>		<p>21F-12 海洋物理一般 プログラム編成委員会</p>
14:00	<p>21F-11-13 豊後水道における豪雨に伴う沿岸と外洋の海水交換 ○森本昭彦(愛媛大学)・董孟洪(愛媛大学)・亀田まひろ(愛媛大学)・柴川大雅(京都大学)・平井真紀子(愛媛県水産研究センター)・三門哲也(愛媛県水産研究センター)・竹尻浩平(大分県水産試験場)・郭新宇(愛媛大学)・武岡英隆(愛媛大学)</p>	14:00	<p>21F-12-13 海洋短波レーダーを用いた津軽暖流の海峡東部における挙動と海峡外でのジャイアーモード形成に関する研究 ○金子仁(JAMSTECむつ研究所)・佐々木建一(JAMSTECむつ研究所)・阿部泰人(北大院水産)・田中雄大(水研機構資源研)・脇田昌英(JAMSTECむつ研究所)・渡邊修一(JAMSTECむつ研究所)・奥西武(水研機構資源研)・佐藤喜曉(JAMSTECむつ研究所)・豊指祥子(JAMSTECむつ研究所)</p>
14:15	<p>21F-11-14 大阪湾における数十年スケールの潮汐変化 ○嘉村拓海(九州大学院)・松浦浩巳(九州大学院)・上原克人(九州大応用力学研究所)</p> <p>★座長 山口一岩(香川大)</p>	14:15	<p>21F-12-14 リアルタイム観測情報で見られた特異潮位偏差現象について ○小田巻実(元海上保安庁)</p>
14:30	<p>21F-11-15 Seasonal variations in currents in the Harima-Nada and occurrence of the Bottom Cold Water ○Siraporn Tong-u-dom(愛媛大学)・Akihiko Morimoto(愛媛大学)・Xinyu Guo(愛媛大学)・Qian Leng(愛媛大学)</p>		<p>21F-04 数ヶ月から数十年スケールの気候・海洋生態系の変動とその予測 土井威志(JAMSTEC)・豊田隆寛(気象研)・中野渡拓也(水研機構)</p>
14:45	<p>21F-11-16 湾内の異なる生息地点におけるアマモの生存戦略について ○坪井昌宏(香川大学大学院)・岸本浩二(香川大学瀬戸内圏研究センター)・山口一岩(香川大学)・多田邦尚(香川大学)・一見和彦(香川大学瀬戸内圏研究センター)</p>	14:45	<p>21F-04-1* エルニーニョに対する強い台風の応答と内部変動 ○山田洋平(海洋研究開発機構)・小玉知央(海洋研究開発機構)・中野満寿男(海洋研究開発機構)・那須野智江(海洋研究開発機構)・佐藤正樹(東大気海洋研究所)・杉正人(気象庁気象研究所)</p>
15:00	<p>21F-11-17 播磨灘における植物プランクトン群集のサイズ組成と物理化学環境 ○岩本達(香川大学大学院)・山口一岩(香川大学)・多田邦尚(香川大学)・一見和彦(香川大学瀬戸研究センター)</p>	15:00	<p>21F-04-2 クロロフィルの経年変動は、エルニーニョ予測に影響を与えるか？ ○土井威志(JAMSTEC)・Swadhin Behera(JAMSTEC)</p>
15:15	<p>21F-11-18 有明海湾奥東部における浮泥・濁度変動機構の観測 ○速水祐一(佐賀大学)・岡村和彦(水産研究・教育機構)・杉松宏一(水産研究・教育機構)・山口聖(水産研究・教育機構)</p>	15:15	<p>21F-04-3 駿河湾への黒潮水貫入とそれに伴う湾内の表層循環 ○豊田隆寛(気象庁気象研究所)・坂本圭(気象庁気象研究所)・碓氷典久(気象庁気象研究所)・広瀬成章(気象庁気象研究所)・田中潔(東大AORI)・勝間田高明(東海大)・高橋大介(東海大)・仁木将人(東海大)・曾田邦夫(東海大)・美山透(JAMSTEC)・中野英之(気象庁気象研究所)・浦川昇吾(気象庁気象研究所)・小松謙介(気象庁気象研究所)・川上雄真(気象庁気象研究所)・山中吾郎(気象庁気象研究所)</p>
15:30	<p>総合討論</p>		<p>★座長 豊田隆寛(気象研)</p>
	<p>21F-14 海洋科学総合 プログラム編成委員会</p>		<p>21F-04-4 バレンツ-カラ海の海水減少トレンドを駆動するガルフストリーム域の昇温 ○山上温航(東京大学大気海洋研究所)・渡部雅浩(東京大学大気海洋研究所)・森正人(九州大学応用力学研究所)・小野純(JAMSTEC)</p>
	<p>★座長 伊藤進一(東大大海研)</p>	15:45	<p>21F-04-5 Decadal sea ice predictability in Antarctic seas using ocean and sea ice initializations ○森岡優志(海洋研究開発機構)・Doroteaciro Iovino(CMCC)・Andrea Cipollone(CMCC)・Simona Masina(CMCC)・Swadhin K. Behera(海洋研究開発機構)</p>
16:00	<p>21F-14-1 九州西岸海域におけるマイクロプラスチックの鉛直分布 ○小林恒文(長崎大学大学院)・丸山裕豊(長崎大学水産学部附属練習船鶴洋丸)・真角聡(長崎大学水産学部附属練習船鶴洋丸)・内田淳(長崎大学水産学部附属練習船鶴洋丸)・青島隆(長崎大学水産学部附属練習船鶴洋丸)・清水健一(長崎大学総合生産科学域水産学領域)・八木光晴(長崎大学総合生産科学域水産学領域)</p>	16:00	<p>21F-04-6 全球海面熱フラックスの長期変動 ○富田裕之(北海道大学大学院)・曾田邦夫(東海大学)・久保田雅久(東海大学)</p>
16:15	<p>21F-14-2 生物過程を考慮した海洋浮遊マイクロプラスチックの鉛直輸送に関する数値実験 ○吉武珠穂(九州大学大学院)・磯辺篤彦(九州大学応用力学研究所)</p>	16:15	<p>21F-04-7 気象庁季節予報用全球海洋データ同化システムの更新 ○藤井陽介(気象研究所)・足立恭将(気象研究所)・石川一郎(気象研究所)・吉田拓馬(気象庁数値予報開発センター)・平原翔二(気象庁数値予報開発センター)・久保勇太郎(気象庁数値予報開発センター)・杉本裕之(気象庁気候情報課)</p>
		16:30	<p>総合討論</p>



## ポスターセッション

- 掲示期間 9月12日 10:00~9月17日 17:00  
立ち合い説明 9月14日 13:00~13:45  
(セッション21F-02, 21F-05, 21F-07)  
9月16日 13:00~13:45  
(セッション21F-06, 21F-08, 21F-13)  
9月17日 13:00~13:45  
(セッション21F-04, 21F-09, 21F-11, 21F-12, 21F-14)

9月14日

- 21F-02 海洋と大気力学**  
21F-02-P2 台風通過にともなう大気境界層の変化：辺戸岬ライダー観測  
○相木秀則(名大宇地研)・蔣英男(名大院環境)  
21F-02-P3 十勝・釧路沖の暖水塊に係る経年スケール海洋流体変動が海底圧力に与える影響  
○長谷川拓也(北大地球環境・東北大院理)・永野憲(海洋研究開発機構)・有吉慶介(海洋研究開発機構)・美山透(海洋研究開発機構)・松本浩幸(海洋研究開発機構)・岩瀬良一(海洋研究開発機構)・脇田昌英(海洋研究開発機構)
- 21F-05 極域・寒冷域の海洋環境変動に関する分野横断研究**  
21F-05-P1 海氷分布が冬季バレンツ海の気温変化に及ぼす影響 —2006年1月の事例解析—  
○万田敦昌(三重大学大学院)  
21F-05-P3 南極海沿岸ポリニヤ域における海氷生産量の変動  
○二橋創平(苫小牧工業高等専門学校)・田村岳史(国立極地研究所)・大島慶一郎(北海道大学低温科学研究所)
- 21F-07 海洋環境における放射性核種の動態—東京電力福島第一原発事故から10年の海洋科学的総括—**  
21F-07-P1 海洋由来と陸域由来の放射性セシウム粒子の比較  
○三浦輝(電力中央研究所)・久保篤史(静岡大学)・石丸隆(東京海洋大学)・伊藤友加里(東京海洋大学)・神田穰太(東京海洋大学)・津旨大輔(電力中央研究所)  
21F-07-P2 日本海におけるCs-134濃度の経年変動 (2011-2020)  
○井上睦夫(金沢大学)・真下海生(金沢大学)・長尾誠也(金沢大学)  
21F-07-P3 沿岸域における放射性セシウムの陸域負荷の影響評価  
○御園生敏治(日本原子力研究開発機構)・中西貴宏(日本原子力研究開発機構)・鶴田忠彦(日本原子力研究開発機構)・尻引武彦(日本原子力研究開発機構)・長尾誠也(金沢大学)・落合伸也(金沢大学)・眞田幸尚(日本原子力研究開発機構)

9月16日

- 21F-06 海洋における微量元素・同位体**  
21F-06-P1 北太平洋亜寒帯域におけるエアロゾル・海水中の鉄安定同位体比に基づく海洋表層の鉄の起源推定  
○栗栖美菜子(海洋研究開発機構)・坂田昂平(国立環境研究所)・小畑元(東京大学大気海洋研究所)・西岡純(北海道大学低温科学研究所)・Tim M. Conway(サウスフロリダ大学)・鈴木勝彦(海洋研究開発機構)・柏原輝彦(海洋研究開発機構)・高橋嘉夫(東京大学大学院理学系研究科)
- 21F-08 中緯度海洋の果たす役割**  
21F-08-P1 オホーツク海の海水変動に及ぼす熱帯海洋からの遅延効果  
○竹端光希(三重大学大学院生物資源学研究所)・立花義裕(三重大学大学院生物資源学研究所)・安藤雄太(新潟大学理学部)  
21F-08-P2 近年の関東地方における降雪の極端化とそれをもたらす環境場の変化  
○中村祐貴(三重大学大学院)・立花義裕(三重大学大学院)・安藤雄太(新潟大学)  
21F-08-P3 冷えない黒潮 —2018年夏季における黒潮と台風の相互作用—  
○川上雄真(気象研究所)・浦川昇吾(気象研究所)・坂本圭(気象研究所)・豊田隆寛(気象研究所)・中野英之(気象研究所)・吉村裕正(気象研究所)・新藤永樹(気象研究所)・山中吾郎(気象研究所)  
21F-08-P4 Assessment of Data Assimilation Controlling Surface and Lateral Boundary Conditions  
○劉天然(九州大学応用力学研究所)・広瀬直毅(九州大学応用力学研究所)  
21F-08-P5 北西太平洋亜熱帯循環域における二酸化炭素蓄積量  
○佐藤克成(気象庁)・延与和敬(気象庁)・笹野大輔(気象庁)・中野俊也(気象庁)・辻野博之(気象研究所)・石井雅男(気象研究所)
- 21F-13 海洋化学・海洋生物一般**  
21F-13-P1 松島湾におけるマガキ浮遊幼生の出現と環境要因との関係  
○横内克己(水産研究・教育機構 水産資源研究所)・伊藤博(宮城県水産技術総合センター)・十川麻衣(宮城県水産技術総合センター)・上田賢一(宮城県水産技術総合センター)・寛茂穂(水産研究・教育機構 水産資源研究所)  
21F-13-P2 希釈培養法を用いた易分解性溶存有機態リンの供給プロセスの検証  
○山口珠葉(水産研究・教育機構 水産資源研究所)・児玉武稔(水産研究・教育機構 水産資源研究所)・富田洋加(上越環境科学センター)・瀬藤聡(水産研究・教育機構 水産資源研究所)・日下彰(水産研究・教育機構 水産資源研究所)・日高清隆(水産研究・教育機構 水産資源研究所)  
21F-13-P3 東経165度線の亜熱帯モード水における全炭酸濃度の経年変動  
○小野恒(気象庁 気象研究所)・石井雅男(気象庁 気象研究所)・笹野大輔(気象庁)

9月17日

21F-04	数ヶ月から数10年スケールの気候・海洋生態系の変動とその予測
21F-04-P1	海水融解期における生物生産に及ぼす北極低気圧の影響 ○中野渡拓也(水産研究・教育機構)・Annette Samuelsen(ナンセン環境リモートセンシングセンター)・Laurent Bertino(ナンセン環境リモートセンシングセンター)・Alfatih Ali(ナンセン環境リモートセンシングセンター)・Jiping Xie(ナンセン環境リモートセンシングセンター)・松枝未遠(筑波大学)・山上晃夫(気象研究所)・猪上淳(国立極地研究所)
21F-09	海洋教育・アウトリーチ活動の実践と課題
21F-09-P1	富山湾の魅力体験 親子教室 ～コロナ禍でつむぐ海の学び～ 張勁(富山大学)・堀川恵司(富山大学)・○大塚進平(富山大学)・片境紗希(富山大学)・野口忠輝(富山大学)・劉蘊曄(富山大学)・孫夢奇(富山大学)・松本碧人(富山大学)・谷口耕一(富山大学)・勝田裕大(富山大学)・野田昌裕(富山大学)・吉田光佑(富山大学)・Nanthana Boungnaphalom(富山大学)
21F-09-P2	海洋分野における女性の活躍をサポートする若手キャリアイベントの重要性と今後の展望 ○片境紗希(富山大学大学院理工学教育部)・田中えりか(海洋研究開発機構)・藤井麻緒(東京大学大学院農学生命科学研究科)・大澤美涼(東京海洋大学海洋資源環境学部)・窪川かおる(帝京大学戦略的イノベーション研究センター)
21F-09-P3	小・中学校における流体実験を活用した海洋教育 ○丹羽淑博(東大海洋教育センター)
21F-11	沿岸域の海洋循環と物質循環
21F-11-P1	浅海用ドリフターの開発と有明海奥部での現地実験 ○南浦修也(九州大学大学院総合理工学府)・山口創一(九州大学大学院総合理工学研究院)・甲木雄介(株式会社ゼニライトブイ)・吉田基(株式会社ゼニライトブイ)
21F-11-P2	長江河川から流出する海洋プラスチックの輸送過程 ○岩崎慎介(寒地土木研究所)
21F-12	海洋物理一般
21F-12-P1	高解像度海洋大循環モデルを用いた海洋循環場の感度実験 ○樽田邦夫(東海大学)・佐々木英治(海洋研究開発機構)・笹井義一(海洋研究開発機構)
21F-14	海洋科学総合
21F-14-P1	全球的に見るテレコネクションとGDP成長率の共変動 ○加藤茜(三重大学大学院)・立花義裕(三重大学大学院)・小松謙介(気象庁気象研究所)・安藤雄太(新潟大学、三重大学大学院)

## 日本海洋学会創立 80 周年記念シンポジウム

－日本の海洋学の今とこれから－

主 催：日本海洋学会  
コンビナー：日本海洋学会幹事会  
日 時：2021 年 9 月 13 日（月）13：00－16：45  
場 所：オンライン

### <開催趣旨>

日本海洋学会は 1941 年に設立され、今年で 80 周年を迎えます。本学会は、海洋学の進歩普及を図ることを目的として、研究集会の開催、学術刊行物の発行、研究業績への顕彰などを行ってきました。2011 年 3 月に発生した東日本大震災は、社会に対する学会のあり方を根底から考える契機となり、その後多くの活動が行われました。2019 年に発生した新型コロナウイルス感染症の危機が続く中で、学会活動の様式は大きく変化し、新しい研究・教育のかたちが模索されています。そのような中 2021 年より開始された国連海洋科学の 10 年（UN Decade of Ocean Science for Sustainable Development）では、世界中の研究機関・科学者の連携による、海洋科学の挑戦的な取り組みが期待されています。

今回のシンポジウムでは、過去 10 年間の海洋学と本学会の歩みを振り返るとともに、これからの 10 年間の方向性を示すための 2 つのセッションを通じて、幅広い世代、研究分野の研究者による対話の機会を設けました。学会の歴史は日本の海洋学の歴史でもあります。このシンポジウムが、海洋学と本学会の進歩発展に大きく貢献する一助になれば幸いです。

### プログラム

	司会 乙坂 重嘉（東京大学 / 幹事）
13:00 – 13:10 開会挨拶	神田 穰太（東京海洋大学 / 会長）
13:10 – 13:20 学会 10 年間の歩みの紹介	梅澤 有（東京大学 / 幹事）

### 13:25 – 15:25 セッション 1「海洋学の 10 年展望」

#### 研究に関する将来構想ワーキンググループ

日本海洋学会では 2020 年度、将来構想委員会の下に本ワーキンググループを立ち上げ、2012 年度以来となる、研究の将来構想をまとめました。将来構想は、【極域、中緯度、熱帯域、沿岸域、深層、大気海洋境界】の 6 つの海域別グループ、および「新たな手法と問題」グループの計 7 グループに分かれて行い、まとめた結果を「海の研究」に、それぞれ総説論文として投稿しました。本セッションではその概要を紹介するとともに、海洋学の今後の展

望について議論を行います。

15:25 – 15:30 (休憩)

15:30 – 16:40 セッション2 「これからの海洋学会のあるべき姿」

関連の深い学協会の代表者をお招きし、日本海洋学会が果たすべき役割について、各学協会からの期待も含め、意見交換を行います。特に、将来構想ワーキンググループからの意見を踏まえた上で、国連海洋科学の10年へどのように貢献していくべきか、議論を深めます。

(招聘予定、50音順、敬称略)

- |                     |           |
|---------------------|-----------|
| ・ 沿岸環境関連学会連絡協議会     | 代表 今井 一郎  |
| ・ 水産・海洋科学研究連絡協議会    | 議長 古谷 研   |
| ・ 一般社団法人 水産海洋学会     | 副会長 米崎 史郎 |
| ・ 公益社団法人 日本水産学会     | 会長 金子 豊二  |
| ・ 公益社団法人 日本地球惑星科学連合 | 会長 田近 英一  |
| ・ 日本プランクトン学会        | 会長 伴 修平   |
| ・ 日本ベントス学会          | 会長 大越 和加  |

16:40 閉会挨拶

伊藤 進一 (東京大学 / 副会長)

ナイトセッション  
国連海洋科学の10年 市民団体との協働に向けて

開催日時：2021年9月13日（月）17：00～19：30

会場：オンライン

主催：日本海洋学会

共催：日本水産学会、日本海洋政策学会

コンビーナー：森岡優志（海洋研究開発機構）田中広太郎（笹川平和財団海洋政策研究所）、  
近藤能子（長崎大学）、伊藤幸彦（東京大学大気海洋研究所）

### 趣旨

国連海洋科学の10年（以下、海洋10年という）は、国連が掲げる持続可能な開発のためのアジェンダ2030を達成するために、海洋科学を駆使して持続可能に海洋を利用し管理する国際的な枠組みである。2021年から2030年までの10年間を対象として、世界各地で海洋10年に関する取り組みが行われる予定で、日本からの貢献も期待されている。2021年2月には日本国内委員会が正式に発足し、海洋10年に向けた日本の取り組みの事例集などがウェブ上で公開されている。2021年6月には海洋10年で最初のハイレベル会合や海洋若手専門家（ECOP）のオンラインイベントが行われ、海洋10年の機運が世界各地で高まっている。

日本海洋学会では、2019年秋季大会以降、海洋10年に向けた国内準備状況の紹介や海洋科学者サイドと社会的ニーズとの関わりについての議論を進めてきたが、これからの海洋科学研究を担う若手研究者との連携は十分ではない。また、海洋10年は海に関わる専門家だけでなく、教育、行政、民間、NPO/NGOなど、あらゆる分野の海洋関係者を対象としており、持続可能な海の将来について様々な視点から議論を行い、1つ1つ具体的な活動につなげていくことが重要である。

このナイトセッションでは、海に関わる国内の専門家やステークホルダーを交えて、海洋10年の国内外の動向や取り組みの事例を共有し、専門分野や世代を超えてネットワークを構築することを目的とする。一生に一度と言われる、海洋10年の機会を活かして、私たちが求める海の将来を共に考え、行動につなげる契機とする。

### プログラム

司会：森岡優志（JAMSTEC）

スケジュール	時間	タイトル	講演者（敬称略）
17:00-17:15	15分	The Ocean Decadeで求められ、目指すべきもの	植松光夫（Interim Decade Advisory Board（IDAB）暫定諮問委員会委員、

			埼玉県環境科学国際センター 総長)
17:15-17:25	10分	ECOP Program and its opportunities for regional networks	Karina Higa (Women40ceans, Sustainable Ocean Alliance - Young Ocean Leader)
17:25-17:40	15分	漂着物が映す自然と人間	村上健太郎 (砂浜美術館 理事長)
17:40-17:55	15分	多様な主体が協働する「持続可能な里海づくり」	神田優 (黒潮実感センター センター長)
17:55-18:10	15分	漁師の知恵を科学する～漁業現場と海洋科学の対話の促進に向けて～	田中丈裕 (里海づくり研究会 議 理事・事務局長)
18:10-18:30	20分	全体討論	進行：道田豊 (東大 AORI 教授)
18:30-19:30	60分	懇親会 (オンライン)	進行：安藤健太郎 (JAMSTEC 専門部長)

## 共催シンポジウム A

沿岸海洋シンポジウム「沿岸域は地球温暖化にどう立ち向かうか」

開催日時：2021年9月18日（土）10：00～16：00

会場：オンライン

主催：日本海洋学会沿岸海洋研究会

コンビーナー：藤井 賢彦（北大院地球環境）・桑江 朝比呂（港空研）

### 趣旨

地球温暖化は主に海水温上昇という形で既に海洋に影響を及ぼしており、将来的には地球温暖化と同様、人為起源 CO<sub>2</sub> の過剰排出が原因となって起こる海洋酸性化や地球温暖化に伴う海洋表層の成層化によって加速される貧酸素化の影響も相俟って複合的に海洋生物に深刻な影響を及ぼすと懸念される。とりわけ、多種多様な生態系サービスを提供している沿岸域では、海洋生物はもとより、人間社会にも直接的に影響を及ぼすことが懸念される。そのため、急務な対策が必要であるだけでなく、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 「1.5°C特別報告書」に示すように、ティッピングポイントを回避するためには極めて迅速な対策が求められる。

地球温暖化対策として主に緩和策と適応策があるが、これら対策の時空間規模も性質も異なる対策を組み合わせる実施していくことが重要である。また、海洋生態系に対する影響は様々な環境負荷が重なり合っている生じているので、海洋生物にとっての局所的な人為影響を軽減していくことは、全球的な地球温暖化影響を緩和していくことにもつながる。本シンポジウムでは、環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト S-14「気候変動の緩和策と適応策の統合的戦略研究」及び S-15「社会・生態システムの統合化による自然資本・生態系サービスの予測評価」の研究成果を含む、沿岸域における地球温暖化影響の評価・予測・対策に関する内容を、様々な関連分野の専門家・実務者にご紹介頂いた上で、分野横断的な相互議論を介して、今後の実施可能な対応策に関して様々なステークホルダーレベルでの意識の向上を促進することが狙いである。

### プログラム

会長挨拶（10:00～10:05） 多田邦尚（香川大）

趣旨説明（10:05～10:10） 藤井賢彦（北大院地球環境）

1. 全球における浅海生態系の面積変化と CO<sub>2</sub> 吸収速度変化の将来予測

- 10:10～10:40 茂木博匡（港空研）
2. 将来の海岸侵食の定量評価とブルーカーボン生態系による波浪減衰
- 10:40～11:10 伴野雅之（港空研）
3. 気候変動と陸域・海域の経済活動の変化が沿岸生態系に与える影響の統合的評価
- 11:10～11:40 仲岡雅裕（北大北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所）
4. 北日本の沿岸域におけるコンブの分布変動予測と緩和・適応策
- 11:40～12:10 須藤健二（北大北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所）

昼食・休憩

5. 日本における沿岸生態系サービスの分布と海の将来シナリオ
- 13:00～13:30 山北剛久（JAMSTEC）
6. 我が国沿岸域における海洋酸性化モニタリングの事例
- 13:30～14:00 田中丈裕（里海づくり研究会議）
7. 沿岸域における海洋酸性化と貧酸素化の複合影響評価
- 14:00～14:30 小埜恒夫（水産研究・教育機構）

14:30～14:45 休憩

8. 今後の我が国の沿岸分野における気候変動対応で取り組むべき課題に関する意向調査結果
- 14:45～15:15 桑江朝比呂（港空研）
9. 総合討論 15:15～16:00



## 共催シンポジウム B

### 中緯度大気海洋相互作用研究の現状と展望

開催日時：2021年9月18日（土）13:00～17:30

会場：オンライン

主催：日本海洋学会

共催：新学術領域研究 「変わりゆく気候系における中緯度大気海洋相互作用 hotspot」

コンビーナー：野中 正見（JAMSTEC）（代表者）、平田 英隆（立正大）、岡 英太郎（東大）、飯塚 聡（防災科研）

#### 趣旨

高分解能の衛星データの登場や数値シミュレーション技術の発展、さらに新学術領域研究「気候系の hotspot」において実施した大気と海洋の集中観測により、中緯度海洋が大気へ能動的な働きをするという海洋学と気象学の概念を変える研究が過去20年において大きく進展した。一方、社会的な関心の強い異常気象・異常天候への中緯度海洋の役割の理解はまだ限定的である。現在実施されている新学術領域研究「変わりゆく気候系における中緯度大気海洋相互作用 hotspot（通称：気候系の hotspot II）」との共催の下、本シンポジウムでは、海面水温に着目した異常気象・異常天候さらに温暖化などの研究を行っている気象学の研究者から、予測可能性向上に向けた海洋研究に対する要望などの話題を提供してもらい、今後の海洋学が取り組むべき観測、データプロダクト作成、数値シミュレーションの在り方などについて意見交換を行う。さらに、大気海洋相互作用研究の新展開に向けた他分野との連携の方向性についても議論を行う。

#### プログラム

座長	平田 英隆	(立正大)	
13:00-13:05	飯塚 聡	(防災科研)	趣旨説明
13:05-13:20	野中 正見	(JAMSTEC)	中緯度大気海洋相互作用と「気候系の Hotspot II」
13:20-13:40	杉本 周作	(東北大)	気候への黒潮の役割について
13:40-14:00	升永 竜介	(東大)	大気再解析における高解像度海面水温データの意義
14:00-14:20	伊藤 耕介	(琉球大)	台風と海洋の相互作用に関する諸研究
14:20-14:40	川瀬 宏明	(気象研)	日本の地域気候変化予測研究の現状
14:40-15:00	宮川 知己	(東大)	全球雲解像海洋結合モデル NICOCO 現状と展望
15:00-15:20	休憩		
座長	岡 英太郎	(東大)	
15:20-15:40	高藪 縁	(東大)	温暖化と大気の川と豪雨について：地球衛星観測による理解の進展
15:40-16:00	小池 真	(東大)	西太平洋の下層雲とエアロゾル影響：航空機観測による動態解明
16:00-16:20	石井 雅男	(気象研)	海洋へのCO <sub>2</sub> 吸収、その中緯度大気海洋相互作用の重要性
16:20-16:40	伊藤 進一	(東大)	海洋生物資源からみた中緯度の大気海洋相互作用の重要性
16:40-17:00	見延 庄士郎	(北大)	国際連携をめぐる現状と展望: CLIVAR, WCRP, PICES
座長	飯塚 聡	(防災科研)	
17:00-17:30	総合討論		